なんでもあり!?
生きものたちの「性」の世界

子孫を残すために身につけた驚異の戦略、
そしてそのメカニズムに科博が迫る！

写真:Science Source/アフロ

アンバサダー／音声ガイド

人気コンビ ラランドが驚きに満ちた「生きものたちの性」の世界のアンバサダーとなり、展覧会の楽しさをみなさんにお伝えします。

ラランド（サーヤ・ニシダ）

サーヤ

恥ずかしいもの、隠して当然のものなんて態度で「性」を語ることに慣れてしまった日本。今回の特別展は、原点に立ち返ることができる重要な節目になると確信しています。過去の自分と少しだけ距離を置いて、本当の「性」とはなにか、冷静に考えるきっかけになったらうれしいです。

ニシダ

太古の原生生物からわたしに至るまで一度たりとも途切れなかった性のバトンパス。そこには多様な戦略とあり方が存在しています。生きものたちが次の世代へと繋ぐために編み出した創意工夫を紹介するのが本展です。ちなみにわたしは好きな子の前だと声のトーンを少し落として喋ります。わたしなりに編み出したバトンパスのための創意工夫です。

プロフィール：

サーヤ：1995年生まれ 東京都出身／ニシダ：1994年生まれ 山口県出身。
上智大学のお笑いサークルで結成されたお笑いコンビ。
M-1グランプリ2019、2020にて2年連続準決勝に進出。サーヤは「性」の諸問題をさまざまな「学問」の切り口から明るく楽しく真面目に深掘りする教養番組「はなしちゃお！～性と生の学問～」（NHK Eテレ）のMCも務めている。

音声ガイド

会場レンタル版	アプリ配信版「聴く美術」(iOS/Android)
貸出料金650円（税込）	販売価格800円（税込）
※お一人様一台 ※展覧会場入口にて専用ガイド機をレンタルできます	※展覧会会期中はいつでもどこでも視聴可能

スペシャルコラボクリエイターズ

「生きものたちの性」×人気クリエイターのスペシャルコラボが実現！

「はじめまして松尾です」

YouTube登録者130万人超の人気アニメクリエイター「はじめまして松尾です」が本展に参加。ユーモアと想像性あふれる視点から、コラボビジュアルや解説アニメーションを制作し、好奇心と想像力を刺激します。

「礼賛」

唯一無二の世界観を放つバンド・礼賛がイメージソングを担当し、本展を盛り上げます。

プロフィール：日本のバンド、礼賛。ラランドのサーヤがCLR名義で作詞作曲とボーカルを担当。川谷絵音、木下哲、休日課長、GOTOがそれぞれ、晩餐（Gt）、籤（Gt）、春日山（Ba）、foot vinegar（Dr）という名義で活動している。

チケット

土日祝日については、オンラインによる日時指定予約をおすすめします。

入場料（税込）	一般・大学生	小・中・高校生
前売券	2,100円	500円
当日券	2,300円	600円

※ご入場に際して、土日祝日は日時指定予約（無料）をおすすめします。※未就学児は無料。小学生以下は保護者同伴でのご入場をお願いいたします。※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。※学生証、各種証明書をお持ちの方は、ご入場の際にご提示ください。※本展を観覧された方は、同日に限り常設展示（地球館・日本館）もご覧いただけますが、常設展示の開館時間内に限ります。※会場内の混雑等により、ご入場を制限する場合があります。各チケットの詳細は公式サイトをご確認ください。

グッズ

さまざまなコラボグッズやオリジナルグッズが特設ショップに登場します！

XY染色体ぬいぐるみキーホルダーセット ¥2,640（税込）
お揃いでつけても二つ並べてつけても可愛らしいサイズ感です。

バナナの花序ポーチ付きエコバッグ ¥2,200（税込）
インパクト抜群！ポーチにしまうとなんと一本のバナナになります！

このほかにもたくさんのオリジナルグッズを揃えてお待ちしています。

※写真はイメージです。※売り切れの際はご容赦ください。※価格や仕様は変更になる可能性がございます。

国立科学博物館（東京・上野公園）
National Museum of Nature and Science [Ueno Park, Tokyo]
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

●JR「上野」駅（公園口）から徒歩5分●東京メトロ 銀座線・日比谷線「上野」駅（7番出口）から徒歩10分●京成線「京成上野」駅（正面口）から徒歩10分 ※敷地内に駐車場および駐輪場はございません。

総合監修

堤 千絵（国立科学博物館 植物研究部 多様性解析・保全グループ研究主幹）
篠田 謙一（国立科学博物館 顧問）

監修

西海 功（国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究主幹）
川田 伸一郎（国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究主幹）
田島 木綿子（国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究主幹）
中江 雅典（国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究主幹）
吉川 夏彦（国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究員）
並河 洋（国立科学博物館 動物研究部 海生無脊椎動物研究グループ長）
神保 宇嗣（国立科学博物館 動物研究部 陸生無脊椎動物研究グループ研究主幹）
田中 実（名古屋大学 名誉教授）

お問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）、03-5814-9898（FAX）

公式X **@ikimono_sei**

本展公式Xアカウント（https://x.com/ikimono_sei）では、「生きものの性」に関する驚きのトリビアを定期的に発信しています。今後の情報発信のためにも、ぜひフォローしてお楽しみください。

展覧会公式サイト **https://www.ikimono-sei.jp**

国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

表：「キッシンググラミー」写真：中村庸夫、アフロ／「メスグロヒョウモン（ギナンドロモルフ）」写真：矢後勝也（東京大学総合研究博物館）／「ヒタチマイマイ」撮影協力：サイトロンジャパン／「ライオン」写真：浅尾省五、アフロ／「コフウチョウ」写真：imagebroker、アフロ

SEX in NATURE : Mechanisms, Evolution, and Biodiversity

性と子育て　指示する脳　性の決定

性の形と行動

特別展 生きものたちの性

温度／環境で決まる雌雄　交尾行動　性転換　闘争　性的対立　歌う求愛　遺伝子　卵巣　ホルモン　卵　雄　雌雄同株　踊る求愛　オスとメスそれ以外　精　性は何か

科博初！「性」に迫る。それは、いのちの戦略。

2026・10・31・Sat → 2027・2・21・Sun　国立科学博物館（東京・上野公園）

開館時間：9時～17時（入場は16時30分まで）　休館日：毎週月曜日、11/4㊌、11/24㊋、12/28㊊～1/1㊎・㊗、1/12㊋ ※ただし、11/2㊊、23㊊・㊗、1/11㊊・㊗、2/15㊊は開館

主催：国立科学博物館、読売新聞社、フジテレビジョン　協賛：早稲田アカデミー

会期・開館時間は変更になる場合がございます。

生きものにとって「性」とは何か。

国立科学博物館初、“生きものの性”に迫る特別展。

性というと、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？性は人間だけでなく、多くの生きものにあり、驚くほど多種多様です。オスとメスが似ていて区別がつかず、解剖して生殖器を見てみないとわからないものや、見た目があまりにも異なり、とても同じ種には見えないものもいます。動物も植物も、卵と精子が受精して子孫をつくりますが、その方法が千差万別の性の表現を生み出します。生きものの数だけ、性のあり方や性にまつわるストーリーがあります。
本展覧会では、そんな奥深い生きものたちの性の世界を紹介していきます。

総合監修：堤 千絵（国立科学博物館 植物研究部 多様性解析・保全グループ研究主幹）

※本展は「生きものの性」をテーマとしており、性的な表現が含まれます。ご来場の際は、内容をご理解のうえご判断ください。
※すべての生きものに恋愛感情が認められているわけではありませんが、本展では一般に理解しやすい表現として「恋」「愛」という言葉を用いています。
※画像はイメージです。画像の生物は標本または映像で紹介します。

第1章 性のすがた

身近な生きもののオスとメス
植物にだって性はある!!
どっちがオスでどっちがメス？

私たちヒトにとって、もっとも身近な性様式であるオスとメス。実は生きものによってはオス、メスがそっくりなものから、全く別のすがたをしているもの、更にはその境界があいまいなものまでさまざまです。驚きとバリエーションに満ちた「性のすがた」を見てみましょう。

カルガモ／剥製（左：メス 右：オス）

ライオン／剥製（上：メス 下：オス）

ニホンジカ／剥製（左：オス 右：メス）

ソメイヨシノ 花（断面）

桜の花はオス・メス両方の機能をもつ「両性花」

第2章 性の形と行動

踊る求愛・歌う求愛　交尾行動と多様な生殖器
精子と卵、その出会いとは？

本当に刺さる!?カタツムリの繁殖作戦
ヒタチマイマイの交尾 撮影協力：サイトロンジャパン

生きものたちのなかには自然界でパートナーに出会うため、派手な色を身にまとい、歌や踊りで存在をアピールするものもいます。時には異性をめぐり激しく争う事も。さらには生きものによって、生殖器や交尾の方法も多種多様。映像や音声、標本で、生きものごとの性の世界を見ていきましょう。

オスはファッションセンスに長けたイケメンたち
オオフウチョウ（オス）／剥製

キスしてる？いいえ真剣勝負です オス同士が口を押し合う闘争行動です
キッシンググラミー 写真：中村庸夫／アフロ

セミクジラ 写真：株式会社Gakken／アフロ

性擬態の花
ビートルデイジー

熾烈な戦いの末に命のバトンは渡される
ヒグマ（オス）／剥製

キガシラマイコドリ（オス）／剥製

オジロオナガフウチョウ／剥製（左：メス 右：オス） 写真：安藤美賀

第3章 性の決定・分化

染色体と性ホルモン
生きている途中で性が変わる「性転換」
温度や環境で、性が決まる!?

カクレクマノミ

生きものの性は生まれたときに決まる―そう思っていませんか？性は染色体だけで決まるとは限りません。温度や仲間との関係で変わるもの、成長の途中で性転換するものや、体内に異なる性の細胞を持つ個体（ギナンドロモルフ）も。生きものによっては、性は環境や状況に応じて変化するのです。

メスグロヒョウモン（ギナンドロモルフ） 写真：矢後勝也（東京大学総合研究博物館）

一つの個体の中で細胞ごとに性が異なる?!

大きくなったらオスからメスへ!?
カブトムシ（ギナンドロモルフ）

オオスズメバチ（女王）
オスには父親がいない!?ハチの不思議な性

第4章 性と子育て

生きものの子育て戦略
親が育てる、みんなで育てる
他力本願の子育て

クチヒロカイマン（幼体）／剥製

子育ての方法も生きものごとにさまざま。ペアが協力して育てたり、オス・メスどちらか一方が育てたり、さらには他の生きものに託す方法もあります。どの方法も「自分の子どもをたくさん生き残らせる」ための進化の結果。親子の関係を通して、命をつなぐためのさまざまな手段を見ていきます。

オスが育てる
リーフィーシードラゴン

メスが育てる
キジ／剥製（上：オス、下：メス、右：ヒヨコ）

チシマラッコ（メス・子ども）／剥製

クチヒロカイマン（成体）／剥製

特別展示作品

マリア・フェルナンダ・カルドーゾ《芸術の起源について I-II》(2016)

ピーコック・スパイダーの求愛行動を捉えた映像作品。微細な生命の美しさと脅威を体験させるとともに、人間と自然の関係を問いかける。

写真：Foto Monsalve

マリア・フェルナンダ・カルドーゾ

現代美術家、コロンビア出身。自然・科学・芸術の接点を探求し、生物や自然現象を題材にした作品を国際的に発表している。

第5章 オス・メスだけでは語れない 性の多様性

常識が通用しない!?性の世界

オスとメスを必要としない無性生殖や、驚きの繁殖方法など、生きもののなかには「こんなのアリ!?」な豊かな戦略が広がります。多様な性のあり方を知ることで、生命の奥深さが感じられます。

無性生殖

ムチモ（海藻）

同じ体の中に同時に卵巣と精巣が発達する。
アオウミウシ

シイタケ